

平成 18 年度学術ポータル担当者研修レポート

受講者名 / 受講者番号 / 所属機関名

岩井愛子 / No.6 / 千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子 / No.7 / 千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳 / No.8 / 千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

2006.10.10

受講者名 : 受講者番号 : 所属機関名

岩井愛子 : 6 : 千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子 : 7 : 千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳 : 8 : 千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

1) 発表資料の状況設定

| | |
|----|-----------------------------------------------|
| 目的 | 学内でリポジトリへの登録、協力が少ない文系学部へ向けてもう一度 CURATOR を紹介する |
| 対象 | 千葉大学のリポジトリ = CURATOR の詳細を知らない教員 |
| 場所 | 学部の教授会が開催される会議室 |
| 時間 | 教授会開始前の 5 分間 |

- 図書館員が 1 から 2 名でプレゼンテーションを行う。
- リポジトリやオーバーレイジャーナルという用語を使わずに、教員が CURATOR に少しでも関心を持てるような内容で行う。

2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

● 発表内容抄録

「研究成果公開のススメ」

- ◇ CURATOR では論文のみならず、様々な研究成果を保存し、学外へ公開している。CURATOR で研究成果を公開すると自身の論文等の可視性を高めることができ、その成果は図書館がサーバで永久的に保存するので安心である。公開と保存という利点を活かし、学部等で発行する紀要を電子ジャーナル化し、図書館のサーバで保存、CURATOR を通じて学外への公開を行うこともできる。これは既にも実例がある。自身の論文がどれくらい引用されているのか実感が持てる仕組みもあり、学長も成果の公開に積極的である。世界に向けて研究成果を発信できる CURATOR の登録などについては図書館が強力にサポートする体制を整えている。CURATOR に少しでも関心を持っていたら、是非、担当宛にご連絡を！

● 研修当日の講師からの助言

- ◇ 担当係は個人名まで記載するとよい。
- ◇ コンテンツ例に挙げたものはデザインに重点を置きすぎ。一番欲しい論文に焦点をあてるべきである。
- ◇ 著作権の処理について。
- ◇ PDF ではなく、ワードと図といったバラバラの原稿でも登録できるのか。
- ◇ 別刷の登録が可能か。
- ◇ 出版済みの資料の登録は可能か。

受講者名：受講者番号：所属機関名

岩井愛子：6：千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子：7：千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳：8：千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

- ◇ タイトル横の数字だけでは利用状況のフィードバックというには弱い。
- ◇ メールアラートなどは行っていなかったため、今後の課題と回答。

● 研修発表との改訂部分

- ◇ Harnad 氏の論文について数値（被引用数はどれくらい高まるのか）を記載。
- ◇ 千葉県美術館のデザイン展へのリンクを削除し、代わりに千葉医学雑誌、公共研究へのリンクを作成。
- ◇ 8 月よりはじめた Web アクセス統計の画像を追加。
- ◇ 担当係の下に担当者名を記載。

3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

| | |
|---------|--------------------------------|
| 日 時 | 平成 18 年 9 月 21 日（木） 19 時 00 分～ |
| 場 所 | 研究開発室（ライブラリー・イノベーション・センター） |
| 発 表 者 | 高野 |
| 発 表 対 象 | 教員、図書館員 |
| 参 加 人 数 | 5 名 |

4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

● 改訂したスライドへの指摘

- <今日からはじめる研究公開のススメ>
 - ◇ タイトルはこれで良い。
- <どんなメリットがあるの？>
 - ◇ 教員のメリットを紹介する部分のインパクトが弱い。
 - ◇ 可視性という言葉は教員にとっては何のことかわからないから、目に触れるとか目につきやすくなるといった表現にしてみてもどうか。あるいは「学術成果のショーウィンドウ」。
 - ◇ また可視性よりは地域連携とか社会貢献といった言葉のほうを強調してはどうか。大学が今おかれている立場であり、教員はこのフレーズをよく聞かされているから。
 - ◇ 可視性の根拠としてあげている Harnad さんの参考文献はスライドの下に持ってきて、可視性の部分を目立たせる。
 - ◇ 永続性について強調したほうがいい。
 - ◇ 安心・安全をメインにし、図書館のサーバというよりも専用のサーバという言葉を使ってより教員に安心感を持たせたらどうか。

受講者名：受講者番号：所属機関名

岩井愛子：6：千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子：7：千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳：8：千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

- <電子ジャーナルにしませんか？>
 - ✧ オーバーレイジャーナルの紹介スライドに雑誌の収録年数も入れて、ひとめで古いものから掲載していることを表示する。
- <次はあなたです！>
 - ✧ 学長が登録している例で「古在先生」と表記している部分を「古在学長」としておく。
- <図書館員が強力サポート>
 - ✧ 世界に向けて発信されている様子がわかるスライド。
 - ✧ 図書館が CURATOR においてどのようなことを行っているのかがスライド一枚ではわかりにくいので、スライドの空きスペースに主要な作業を箇条書きで 2・3 点挙げておいてはどうだろうか？（代行入力支援とか電子ジャーナル化ご相談など）
- <その他>
 - ✧ CURATOR の実際の画面は最後のスライドでリンクを辿って見せる程度でよいと思う。
 - ✧ CURATOR の画面そのものよりも、Google から研究成果が見られることが重要なので、Google で検索し、CURATOR の URL がヒットしている部分をキャプチャしておいてはどうだろうか？
- プレゼンテーションの方針などについて
 - ✧ リポジトリという言葉を入れない方針のプレゼンテーションであったが、先行大学では名称にリポジトリという言葉を入れていることが多いので絶対にこの言葉を使わないという方針でなくともよいと思う。
 - ✧ サイエントフィック・データを入れることが重要、主流になりつつあるし、千葉大学のコンテンツ収集のポリシーは「何でもあり」なので、コンテンツを論文中心にしなくとも良いのではないかな。
 - ✧ 説明に向く学部によって、コンテンツで目立たせるものを変えるというのもいい手段であろう。文学部であれば、縦書き・日本語論文などが良い例。
 - ✧ また説明に向く学部で既にリポジトリに登録している教員がいれば、その人物の成果をスライドに大きく掲げると良いだろう。後に学部の教員がその人物にリポジトリ登録について相談するであろう。

受講者名：受講者番号：所属機関名

岩井愛子：6：千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子：7：千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳：8：千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

5) その他（備考、今後の予定と希望 etc.）とし、受講者名・受講者番号・所属機関名を全員分明記する。

様々な指摘を受けたが、全体としてプレゼンテーションは好評であり、教授会前という設定ではなくとも、図書館員が学部の特定の教員へリポジトリの営業へ出向くときに使えるのではないだろうか、という感想をいただいた。

千葉大学は学内研究成果型リポジトリを目指す方針である。

受講者名 / 受講者番号 / 所属機関名

岩井愛子 / No.6 / 千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子 / No.7 / 千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳 / No.8 / 千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係

受講者名：受講者番号：所属機関名

岩井愛子：6：千葉大学情報部学術情報課雑誌情報係

高野厚子：7：千葉大学情報部情報サービス課亥鼻分館係

松木尚巳：8：千葉大学情報部情報サービス課松戸図書係